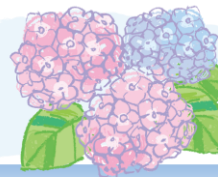


タイピックだより

6月号



2016.5.20 発行

Vol.42



南から暖かな風が届き始める六月。例年、中国地方では六月の中旬に梅雨入りし、七月中旬に梅雨明けします。この期間は、恵みの雨によって草木が大きく生長する反面、洪水や土砂災害などの大雨による災害が発生しやすい時期でもあります。いざという時の為

に、ハザードマップや緊急時の対応などを確認しておくのも良いかもしれません。

雨の日は、外に出るのが億劫だと感じる方もいるのではないのでしょうか。昔から、雨の日は、読書に最も良い時間とされていて、「冬は歳の余、夜は日の余、陰雨は時の余なり」『出典

魏志(三国志)』という言葉も残っています。長雨も、神様からの贈り物と捉えていたのかも知れませんね。読書に限らず、雨の日ならではの過ごし方を見つけ、気分明るく、夏への弾みをつけたいものです。

六月は、食中毒が増える時期でもあります。「まだ大丈夫」という油断が文字通り「命取り」ということにもなりかねません。家庭での食中毒は、ちょっとした体調不良として見落とされ重症化することもあるそうです。温度管理や衛生に十分注意し、食中毒かなと感じた時は、かかりつけ医師の診断を受けましょう。



タイピック祭 IN グラントワ

今年は毎年恒例の「タイピック祭」を、4月27日・28日にグラントワにて開催いたしました。今年も大勢のお客様をお迎えして、会場は大変な賑わいとなりました。展示会場では皆様の職場でお役立ちいただける様々な商品、セキュリティ商品等々どの商品も大変興味深くご覧いただき、セミナー会場では「人手不足時代に増収・増益の力を握るセミナー」と題しまして、「人材採用」「女性活用経営」などの講演が行われ、参加された皆様にご好評をいただきました。また、地元企業各社にご協力いただき、景品コーナーも大変楽しく、賑やかになりました。

多数のご来場、誠にありがとうございました。



多数のご来場ありがとうございました!!

必要とされる人へ、必要とされる会社へ



株式会社 タイピック



〒698-0023 島根県益田市常盤町7番3号
Tel. (0856) 23-2800 代 Fax. (0856) 22-5592 番
<http://www.typic.jp>

社長の つぶやき



今年四月初旬に東日本震災地を訪問して来ました。今回は原発近くに住まわっていた川崎葉子さんに、福島市からいわき市双葉町をご案内いただいた後に、宮城県宮城郡松原町から海岸沿いの国道を気仙沼市まで見てまわりました。

松原町から石巻市までは途中で工事が行われていますが、変わったなこの思いはなく、まだこんな状況なのだと思ひながら石巻市に到着。ここでは、致知出版社の主催する徳望塾でお会いをいただいた株式会社ヤマサコウシヨウの佐々木社長を表敬訪問しました。

弊社は東日本震災復興が終わるまでパソコン教室の入会金の一割を復興資金として寄付することを表明しており、今年には佐々木社長とのお出合いをいただいたので、益田に戻ってから、趣意書をしたためて石巻市へ送金いたしました。

石巻を経て女川町を見ました。ここでは駅前を中心に若者が提案した街づくりが盛んにおこなわれていますが、まだその姿を見ることはできません。ただ、なぜか線路もないのに『女川駅』が建っており、ここを拠点に街づくりを計画しているのだと思いました。

宿泊先であるホテル観洋さんに到着。

翌日は震災後にお出合いをいただいた株式会社佐藤鉄工所の佐藤社長にご案内いただき、まず遠藤末希さんが避難を呼びかけながら亡くなられた防災センターに行き、亡くなられた方々の冥福をお祈りいたしました。昨年までは建物の側まで行けましたが、今年は防災センター周辺には土が高く積まれており近づけず、道路を挟んだところから拝みました。



次に訪問したのは、志津川中学校、ここは高台で南三陸町を見下ろすことが出来、全体の姿を見ることができ、この場所から見ても土が山のように積み重なっているだけの状況でした。この場所から震災時に津波が押し寄せてくる画像を携帯で見ましたが、無残でいたたまれない心理状態になりました。

次に高台に上がり見たものは、昨年十二月に開業した『南三陸病院総合ケアセンター三陸』です。この病院は震災当

時『志津川病院』として南三陸町で唯一の総合病院でしたが、五階建ての建物の四階まで海水に浸かり、七十四名の方が犠牲となられ崩壊したのです。この新病院は建設費が約五十六億円かかったのですが、その内二十一億は台湾からの義援金だったと聞きました。台湾の方々の日本に対する熱い思いに感謝しながら、気仙沼を経由して帰路につきました。

社内木鶏会

致知の感想

致知 視座を高める

特集 視座を高める 三浦 恵美子

宮崎さんの奥さんの言われた言葉は楽天的なところもあるけど、宮崎さんに対する信頼の言葉が大きいのかと思います。言葉の重さを感じました。でも掛けてもらった言葉が前向きな言葉でも本人の気持ちが悪る向きのままだったら、運命は好転できないと思うし、自分自身の心の強さが運命を良くしていくのだと感じました。何とかなると思う楽天的なところと、自分に対する自信がないと心は強くなれないと私自身も思うように心掛けていますが、ちよつとしたことで自信をなくしたり、不安になったりすることもあります。

そんな時に、信頼している人から心強い言葉を掛けられることで気持ちが悪るなったり、前向きになれたりします。自分のことだけを考えるのではなく、人を想いやる

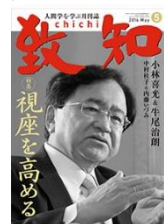
心を持ち、そして、自分自身も心を強く持つことで視座は高められると思います。自分勝手な思いばかりで過ごしていると決して視座は高まらないと思います。自分の周りにいる人達に元気を分けてあげられるような一言を言える人になりたいと感じました。

半径一メートルの人から幸せにする

浅野 成耶

重永忠氏は、会社はお客様を喜ばせるのは、当たり前のことであって社員が人生を懸けて志事(仕事)に取り組んだ結果、幸せになる場所だと言っておられました。会社の利益を重視するのはもちろんですが、社員満足度の向上にも力を入れられていてすごいなと思いました。たしかに、会社の雰囲気などが良くないと会社に行きたくもなくなるし、仕事にも身が入らないので必要なことだと思います。社員全員がやりがいを持って働けば、会社の業績もよくなり、自分たちの人生も豊かになっていくし、お客様を喜ばせることにもつながっていくのではないかなとも思いました。自分はまだ働きだして間もないので、あまり大きなことは言えませんが、早く仕事へのやりがいを感じられるようになり、家庭を持つようになつたら、家族も自分も幸せになれるようにがんばろうと思いました。

合同社内木鶏会



昨年引き続き、五月七日土曜日に、社内木鶏会を導入している株式会社アケボノ様、橋本商店様、株式会社メイワ様と当社株式会社タイピックの五社合同の社内木鶏会を行いました。

社内木鶏会とは、致知という月刊誌をテキストに、月に一回、会社内で開催する社内人間学を学ぶ勉強会です。

部署の垣根を越えて、膝を突き合わせ意見交換を行う社内木鶏会は、いつもは話す機会のない部署の社員同士でも、会社やお互いについての理解が深まり、また記事内の経験談や教訓を共有することで、新たな気づきやお互いの長所を見つけることが出来ます。合同木鶏会は、更に大きな垣根である会社を越えた貴重な勉強会となりました。同じ記事を読んでいるのに各人の意見は様々です。特に、異業種である他社の方の意見を聞くことで、全く思いもしなかった視点があることに気づかされました。今回の致知のテーマである「視座を高める」という言葉に薫陶を受けた志の

高い意見を聞き、自然と胸が熱くなりました。そして、この合同木鶏会のような、五社の社長のお話を一度に拝聴する機会など、なかなかあるものではありません。株式会社アケボノの吉部社長の年に一回やりましょう」という言葉に、一回と言わずに何回でもと思うほど、次回の開催がとても楽しみです。致知をしっかりと読み込み、より多くのことを交換出来ますよう、人間力を高められるように中身作りと日々の業務に力を入れたいと思います。



誕生日の決意

OA事業部 営業

杉内 崇



今年の6月で41歳になります。41歳という日本では本厄になり、仕事や健康での不安な面が出てきます。現にこの年になると首・腰・膝と若いころには無かった痛みがあり、日々体調に気をつけながら生活をしています。(笑)

競馬の世界では「無事は名馬(ぶじこれめいば)」という言葉があり、どんなに優秀な成績を残した競走馬も怪我をしては元も子もない、怪我をせず引退まで走り続ける馬こそが名馬であると言われています。

私も気持ちは若く在りたいですが、身体をいたわりつつ、一日一日を大切にしていきたいと思っています。



ゆつりやさしいパソコン教室

植田三栄子



今年で45歳。

誕生日を迎えて変化があったかという何もないですが、45歳までを通して変わったことはたくさんあります。一番感じることは、時の流れが早くなっているという事。今年の一年はこれまでで、一番早く感じました。パソコン教室の生徒さんたちが言われるように、

年々早く感じて行くのでしよう。

わがまま放題の娘時代から、最近では、周囲の優しさ(愛情)に気づき、受け入れ、感謝することが出来るようになってきました。まだまだすべての優しさに気づけていませんが、年を重ねる毎に、これから出逢う人、そして関わる人たちの関係の中に、優しさを見つけていきたいと思っています。人生最高の一年にします。

印刷事業部

竹中 智広



21歳になるに当たり、物事に対して丁寧かつ素早く行動できるように努力していきたいと考えています。業務にしっかりと取り組むのも大切です。しかし、その中で丁寧さと素早さが無い事には、良いものの、納期を守ることに繋がります。入社してまだ一ヶ月ですが、自分出来る事からしっかりと頑張りたい。業務の効率化と自分の能力を高めていけるように一所懸命仕事に向き合っていきたいと思っています。また、私は家族のために恩返しを沢山し、家事の手伝いを自発的に行うなど両親の負担を少しでも減らせるようにしていきたいです。

ゆっくりやさしいパソコン教室



ゆっくりやさしいパソコン教室では、パソコン以外の「ブリザーブドフラワー」「健康体操」「うちわ作成」「タブレット講座」など沢山の特別講座の他にも、バーベキュー大会やバス旅行など様々な企画を開催して、皆さんに楽しい時間を過ごしていただいています。

先月、益田教室では毎年恒例の文化祭を開催した日、浜田教室と萩教室では、合同の花見を開催しました。今回は、その模様を浜田教室長の西田がご報告いたします。

鈍行で行く萩城への花見旅

浜田教室長 西田寿喜

萩に花見に行く。車じゃなくて「鈍行列車」で行く。

萩の桜も素敵だし、プラス電車の旅も面白そう。童心に戻った参加者たち（何十年前だ？）は、おやつをたくさん詰めたカバンを持つての参加。荷物はとっても重い、気持ちちは軽い。

朝7時、電車が浜田を出ると車内ではお菓子にチョコレート、缶ビールに日本酒。

「電車の旅ならゆで卵と冷凍ミカンが定番だけどミカンは無かった（残念）」と言う強者もいる。家から持ってきた手作りのおにぎりを美味しくそくに食べる人。みんなそれぞれの電車の旅を楽しんでいる。途中から乗車した人は、寝坊して乗車切符買っていないし。ともあれ電車は走り、車窓を流れる日本海の景色を眺めながら萩への2時間の旅はあつという間だった。

萩の桜は一週間前なら満開だったようだ。とは言え、残

った半分の桜でお花見は充分。かえって人が少なく貸切状態で気持ちがいい。

早くから場所取り用に萩教室が手配してくれたブルーシートに車座になり、桜を眺める。まもなくお弁当が届き、散る桜の下で美味しく頂いた。

浜田教室と萩教室の生徒さんが一緒にお弁当を食べ、いろいろな話が出来て、楽しい合同花見会にすることができた。これから毎年恒例の行事にしていきたいと思う。



パソコンがご縁で仲良くなった仲間でパソコン以外の楽しみを共有することもあり、「教室に行けば何かある!」と思って頂ける楽しいイベントをこれからも私たちスタッフ一同で企画し、皆さんと一緒にますます楽しい教室にしていきます。

パソコン教室に行けば、日常の生活ではできない体験をすることができ、これからの人生の楽しみが増えること間違いありません。

ぜひ一度教室に足を運んでみてください。皆様のご入会をお待ちしております。



同じことを100回聞かれても笑顔でお答えします